

# 高齢者の結核対策

全国的に結核罹患率は減少傾向にあります。年々高齢者の占める割合が増加しています。  
 札幌市では、新規結核患者登録者の7割以上が65歳以上の高齢者です。  
 高齢者の結核には、どのような特徴があるのでしょうか。

## 特徴1 既感染発病が多い

若い頃に結核がまん延していたため、既に感染している方が多い。加齢や他の疾病で免疫力が低下した時に発病する。

## 特徴2 他疾患治療中に発見されることが多い

患者発見方法で一番多いのは高齢者・非高齢者ともに「有症状受診」で6割前後。  
 次いで、高齢者では30%の方が「他疾患の治療中」に発見されている（非高齢者では12%）。

## 特徴3 呼吸器症状以外にも注意が必要

診断時に呼吸器症状がなく、発熱・食欲低下・ADL低下などの全身症状のみの方が17%（非高齢者では6%）。  
 「長引く咳」ばかりに注目しては早期発見が難しくなる。

※数値はH22～23年新登録結核患者調査（札幌市）より 高齢者→65歳以上 非高齢者→64歳以下

## 早期発見で 重症化予防&感染拡大防止

### ◆サービス利用開始時と1年に1回は胸部X線検査を

- ・感染症法により、社会福祉施設（※1）の施設長は、年1回の結核定期健診が義務付けられています。
- ・他疾患治療中の方で、X線検査をしている場合はその結果を把握しておきましょう。
- ・65歳以上で健診を受ける機会がない場合、住民集団健診（※2）で検査を受けることができます。

### ◆発病リスクをチェック

既感染者が多い高齢者では、発病リスクを把握しておくことが早期発見につながります

◇発病リスク：結核既往歴、糖尿病や塵肺、人工透析、癌治療、生物学的製剤・副腎皮質ホルモン剤など免疫抑制作用のある薬剤を使用中 など

### ◆日々の健康チェック～「健康チェックリスト」の活用を！

- ・咳や痰などの呼吸器症状以外にも、全身状態の観察を継続することが大切です。
- ・札幌市保健所作成の「健康チェックリスト（※3）」をぜひご活用ください。

※1：生活保護施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、障害者支援施設

※2、※3、※4：札幌市ホームページでご確認いただけます。 [「札幌市 結核の予防」](#)で検索

公財）結核予防会結核研究所作成の「高齢者施設・介護職員向けのハンドブック」（※4）です。  
 こちらもぜひご活用ください

高齢者施設・介護職員対象の結核ハンドブック

（2016年7月）

公益財団法人結核予防会結核研究所  
 対気支援部保健看護課